
日本科学者会議

福岡支部ニュース

2014年10月22日発行 No. 228

●日本科学者会議事務局

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-15

Tel: (03) 3812-1472

●福岡支部事務局

事務局長 小早川義尚

〒819-0395 福岡市西区元岡 744

九州大学・基幹教育院

Tel: (092) 802-6014

E-mail: kobayakawa@artsci.kyushu-u.ac.jp

郵便振替 福岡 01790-1-5576

目次

- 1 日本科学者会議第20回総合学術研究集会の報告
 - 2 20 総学講演会アンケート結果
 - 3 福岡核問題研究会（10/4）の報告
 - 4 例会・研究会等の御案内
-

1. JSA第20回総合学術研究集会「持続可能な社会を目指して - 地域・現場・市民から」を終えて

9月12日から福岡市早良区西新の西南学院大学を会場に日本科学者会議第20回総合学術研究集会（20総学）が開催されました。20総学を九州地方区で引き受け、福岡で開催することが決まり、一昨年岡山での19総学の後から実行委員会準備会を立ち上げ、三好実行委員会委員長を先頭にまずは福岡支部のメンバーが中心となり、会場の確保を最優先課題として取り組みを始めました。その中で、西南学院大学の教員に新たにJSAの会員になっていただき、交通の便の良い西南学院大学を無償で会場に提供していただくことが出来ました。今回の総学に参加された皆さんにも賛同していただけたと思いますが、西南学院大学の協力が20総学を成功させる上で大変大きな力となりました。主催地方区の実行委員会として、会場の確保や地方区としての分科会の設定も含めて、あらゆる伝をたどってJSA内外に助けを求め協力を訴えてゆくことがJSAの活動において大切であり、道を開くものであることを痛感しています。

さて、20総学そのものは、通常の参加者に市民の登録参加者（1000円の参加費で講演・分科会に参加できる券を用意しました）を含めて延べ400名を超える参加があり盛況の中に終わることができたと思います。馬奈木弁護士による基調講演・吉岡九州大学教授による特別講演には、300名近くの聴衆が水俣、諫早・有明、玄海、福島に思いを寄せながら熱心に聞き入ることができました。二日目の沢田名古屋大学名誉教授による特別講演でも200名の聴衆が放射線被曝（爆）の実体を中心に深く学ぶことができました。また、それぞれの分科会では、JSAの各研究委員会での活動をベースにJSAの会員・非会員を含めて活発で有意義な討議がなされたものと思います。しかしながら、「20総学基調講演・特別講演のアンケートのまとめ」を見ていただいても一目瞭然ですが、20台、30台の参加者は全参加者の5%にも満たない状況です。ずっと言われ続けてきたことですが、かなり意識的に若返りを取り組まなければ、総学も含めてJSAの活動は展望が開けないのが

実情です。そんな中、閉会集会において、ある分科会のコーディネータから、分科会会場のサポートに入ってもらっていたアルバイトの学生さんから、「分科会を聞いて大変勉強させてもらった」との感想が紹介されたことが印象に残ります。また、一人の学生は、総学の内容に興味を持ち、予定を変更して1日余分に分科会のサポートに入り、若手夏の学校まで参加してゆきました。耳を傾けてもらえさえすればJSAの研究活動は、若者にも大変魅力のあるものであることが確信できました。また、19総学と同様、20総学を通して新たな会員を迎えることができたことも大きな喜びです。このような、小さな手ごかりをしっかりとつかんで今後のJSAの活動に繋げて行きたいものです。

総学最終日と翌日に企画した3つのエクスカージョンも、それぞれ20総学のテーマに沿った内容を含み、地域の特色を生かしたもので参加者に満足いただけるものとなったようです。

19総学で企画・実施された市民団体との交流会は引き続いて開催しました。シニア・ヤングのセッションは、実行委員会・事務局の総学そのものに集中してゆくという判断により設定を見送りました。その他にも、実行委員会の力の及ばなかった点多々あったかと思いますが、身の丈に合わせて取り組んだ20総学で九州地方区は少し身の丈が伸びたように思います。

小早川義尚(20総学事務局次長・福岡支部事務局長)

2. 20 総学基調講演・特別講演のアンケートのまとめ

20 総学の基調講演・特別講演でのアンケートの集計結果を以下にまとめて、報告します。質問項目と回答の割合(%)です。後半に自由記述意見を掲載します。

- (1) あなたの性別を選んで下さい。
女性 20% 男性 80% (性的マイノリティーの立場に配慮が必要)
- (2) あなたの年代を選んで下さい。
20代 1.4% 30代 3.4% 40代 6.1% 50代 11.5% 60代 50% 70代以上 27%
- (3) 日本科学者会議の会員ですか。
会員 75% 非会員 25%
- (4) 講演会を何で知りましたか。
友人・親族 15.0% 新聞 1.4% ウェブサイト 16.4% メール 8.2% チラシ 23.8%
その他(「日本の科学者」やサーキュラー) 38.1% 無回答 12.2%
- (5) 今回の講演会の感想を次から選んで下さい。
大変有用 69% まあまあ 9% あまり有用でない 0.7% 無回答 21%
- (6) 日本科学者会議の原発シンポジウムや講演会に出席されたことがありますか。
参加したことがある 74% 今回が初めて 26%

(7) 今後、講演会などで取り上げてほしいテーマは何ですか（複数選択可）。

- | | | | |
|---------------|-------|-----------------|-------|
| a. 放射線被曝の健康被害 | 35.4% | b. 原子力発電の再稼働問題 | 38.1% |
| c. 原子力発電の廃炉問題 | 49.7% | d. 再生可能エネルギーの活用 | 36.1% |
| e. 憲法と集団的自衛権 | 32.3% | f. 地球温暖化問題 | 28.6% |

以上の課題の他に次のような課題が上げられていました。

- ・どのテーマでも批判だけでなく提案／決意をききたい
- ・各種の福島原発事故調報告をどう生かすのか
- ・経済，アベノミクス，日本経済の今後，対案的なものを
- ・学校教育と科学的思考の育成
- ・大学教育問題，大学の自治
- ・中等教育の問題点と解決策（「選ぶ(される)教育」から「造る(育てる)教育」へ）
- ・「町内会をどう変えるか」
- ・民主主義をいかに取り戻すか，市民の社会参加の課題
- ・沖縄の基地問題
- ・格差社会の実態と要因
- ・TPP 問題
- ・農薬ネオニコチノイドの危険性（生態系の破壊，人の神経系への悪影響）
- ・科学者と政治の関わり，どう政治を変えるのか
- ・体験者・犠牲者からの報告や証言
- ・新しい哲学の構築：「使えても使わない，作ることはできても作らない」

以下に、自由記入のご意見を掲載します。

- （馬奈木講演について）多面的で奥深い講演に深く感銘しました。科学者会議の役割（事実の究明，記録など），問題解決の方向性など多くの教訓をいただきました。深く御礼申し上げます。
- 予稿集の「メカニズム論は誤っている」の意味が話しを聞いて分かりました。城下町の利権構造についてもっと話しを聞きたかったです。「住民」の内容の分析ということかとも思います。
- 馬奈木先生の話で官僚の体質がよく理解できた。吉岡先生の話でエネルギーの現状（特に火力）がよく分かった。また脱原発と時間について考えさせられた。
- 馬奈木先生の着眼の数々に感心しました。吉岡先生の話も具体的でよかったと思います。
- 馬奈木弁護士の講演では，長い間積み上げてきた弁護活動を土台に，国や企業の本性を明らかにしていただいた講演に感動しました。大飯原発裁判での福井地裁判決に対する原子力学会の声明に驚かされましたが，「力ある正義は勝てる」が心にしみた。吉岡教授の講演は，盛りだくさんで未消化でした。
- 会誌「日本の科学者」には馬奈木弁護士の話しのような論文がほしい。吉岡先生の考え方のようなソフトな原発反対論も今までにない原発反対論であり，会誌の論文にほしい。
- 大変勉強になりました。特に，馬奈木先生の公害との対比が分かりやすかったと思います。吉岡先生のスタンスは，いま必要なのかも知れませんね。参考になりました。
- 「原告団を一万人で」（力のある正義），すばらしい。北海道でもとりくみたい。

- 馬奈木弁護士の講演：大変良い話しを聞かせてもらいました。お身体を大事にご活躍下さい。吉岡教授の講演：政府・財界の原子力政策の内幕の話は大変参考になりました。原発批判の貴重な存在としてご尽力下さい。
- 馬奈木講演：水俣病の闘いご苦労様です。要求を実現する力=力を持った正義。大変なこと、しかし、それがないと... 日本科学者会議しかり。吉岡講演：政策文書風に書くと、実現可能なものを書く、都合の悪いことも書く。日本科学者会議のpolicy立案にも活かすべきではないか。原子力政策の構造が大部理解できた。有り難うございました。
- 馬奈木講演：豊富な経験に基づく重要なポイントを教えてもらった。3.11前からの原発裁判を批判したかのようなニュアンスの発言はやや気になる。当時はそのような取りかかり方しか“なかった”。時間超過はあとにひびく。吉岡講演：政府の動きがよく分かった。
- 体制側の「二重思考」(ダブルシンク)がひどいことがよく理解できた。①「良心的科学者組織発展への提案」、②「大学人と他の社会人とのより豊かな連帯」
- 馬奈木弁護士のお話に感銘を受けました。力ある正義をつくりあげる。そのために、社会的な連帯をひろげることが大切だと思いました。
- 水俣の現実の闘いの中での豊かな経験が分かってとても興味深く聞いた。ぜひ福島への闘いにも活かしていきたい。政府の舞台の中で厳しい闘いをしてきた先生に敬意を感じたし、より幅広い運動を作る必要性を認識した。
- 吉岡さんの発表スライドはJSAのHPに掲載して下さい。だれでも利用可能なように。
- 馬奈木講演：アジア太平洋戦争も水俣公害も福島原発も、すなわち、戦争も公害も原発も、その発生原因、加害構造、被害構造、責任の所在を隠ぺいし、問題の本質をはずす権力と資本の支配の手法、そしてその対する闘い方が具体的によく分かった。吉岡講演：明確な原理と柔軟な政策の具体的なあり方と重要性がよく分かった。
- 馬奈木氏の講演は、水俣から玄海まで自分が裁判で関わってきた教訓を率直に語られとても感動した。最後に言われた、原発立地自治体の置かれた状況が水俣のチッソの城下町より更にひどい状況であり民主主義も憲法も選挙権も被選挙権もないとの指摘に注目させられた。吉岡氏の講演は、「脱原発社会の創造」と私たちが目指すべきこれからのあり方を具体的に提起され分かりやすかった。実際にどう具体化するかが私たちに問われていると思った。とても参考になった。どうもありがとうございました。
- 「持続可能な社会」は、立場を替えれば対米従属と大企業のもうけを“持続可能”という考えもあり、sustainable developmentもその立場も含んでいるように思われる。だからこそ「地域・現場・市民から」という立場が重要であり、憲法に保障された国民の権利を守る立場から「持続可能」とは何かを考えなければならないのではないかとすれば、われわれ老人は子どもたちの未来をどう保障するか、彼らをどう「科学的思考(批判力をもった存在として)」に近づけるのかは大きな課題だと思う。
- 基調講演は、「水俣の実践」に基づく具体的な教訓と「福島問題の提言」も含めて、大変示唆的でした。「力のない正義」は実現しない!その通りです。それでは、「市民的」正義を実現したい科学者(今日の参加者)は、いま、何を、どう取り組めばよいのか、参加者で、本気で考えたいです。
- 馬奈木さんの講演では、見方の幅が広がったように思いました。吉岡さんの講演では、実践家としての活動を拝見できました。今後とも頑張ってくださいと思います。

ます。参考にして行けたらと思います。

- 水俣と福島の関係がよく分かった。原発の高濃度汚染物について、10 万年以上もの管理が必要だが、原発を稼働させれば、より負の遺産が増加するだけではないでしょうか。原発再稼働ゼロにすることは大切ではないでしょうか。
- 馬奈木講演：水俣病を引き起こした構造が、福島原発事故やその他の公害と国家の問題の構造がまったく同じで続いていることを理解しました。おもしろかった。吉岡講演：原発ゼロを具体的に実践していく上での課題がよく分かりました。
- 弁護士と非会員と言うことが新鮮だったように思う。馬奈木さんのお話は、予稿にそったものではなかったが、現場の経験にもとづいており、飽きさせない内容だった。吉岡さんの話も大変興味深かった。原子力市民委員会での具体的な検討状況は具体的なものを含んでおり、有益なものと感じられた。
- 馬奈木弁護士さんの話は、大変分かりやすかったし、すごく迫力があつた。自分の金もうけのためには人の痛みも分かろうとしない、いや人とみない官僚の実態を知ることができた。「原発があるということ自体が憲法違反だ。言論の自由をうばう」「正義では勝てない。力のある正義なら勝てる」といった体験を通した中で得た真実の言葉が強く心に残りました。玄海原発のある町に勤める教員として、本当に正義の通らない町、民主主義のない町を感じています。勇気をもらいました。
- 原発放射能については司法社会科学以外に自然科学者としても問題点がある。科学者会議でそこをスルーして議論するというのはややリスクもある。(人体健康リスクの科学、因果関係論が未熟)
- 馬奈木講演：企業と政府の科学責任の観点、公害問題と原発問題に共通する経済システムの観点、よる理解できた。吉岡講演：原発は即時ゼロでも電力供給には問題ないところ。原発というのは架空の需要をつくる性質を持っているのではないか？
- 水俣病の問題から学ぶ点が多々あると感じた。歴史をひも解く重要性を感じた。また、吉岡先生のお話は現状についてリアルに知ることができ有意義であった。
- 系統的な話しで頭の中を整理できた。脱原子力政策大綱といった「政策」として脱原発を打ち出す試みは重要と思う。スライドが頂けるとおっしゃっていたので、欲しい。
- 「日本の政府・官僚は無法者」(同じ論理の日鉄鉱業など。しかしそれより悪質な国)-主文さえ守ればよいのでしょうという姿勢。主文すら守らなくなった「諫干問題」という話しには呆れた。原発と公害問題を接続して考える基本的なところが分かった。
- 馬奈木先生の凛とした姿勢、問題との向き合い方、徹底した社会的弱者に寄りそう言動すべてに共感しました。勇気をいただきました。ありがとうございました。
- 馬奈木先生の人生と、水俣、諫早、福島(玄海)が重なり興味深い講演でした(「たまたかい続けるということ」の内容を御本人から伺えるなんてすごいことです)。私たちが生きている限り、社会と無関係ということはありえません。馬奈木先生が弁護士としてとりくんでこられたように、研究者もまた社会の中で自分たちの役割を自覚していかなければならないのだと思います。お疲れさまでした。ありがとうございました。
- 原子力基本法についてのコメントが欲しかった。
- 市民に開かれてとてもよかったです。資料も帰って読んでみたいです。
- 本日(12日)の2題とも、興味深く聴かせて頂きました。吉岡先生はいつ聴いても合理的思考で時代の情勢変化にもびくともしない論理で、とても信頼できます。
- せっかくの講演を生かすために、質問時間をもうけてほしかった。

- 御用学者が調べたら被害者ゼロ，原田先生が多数（水俣病）などのように，政府は国民を欺すことを広く人々に知らせたい．原発のもとでは言論の自由なし etc, 多々，馬奈木先生の熱意が伝わってきました．“脱原発”を声高に叫ぶだけでなく，冷静に考えて廃棄にもっていくために大変勉強になりました．私たち市民もがんばります．
 - 日本科学者会議の存在も知りませんでした．ちょっと用語（使われたことば）にむずかしいものがあり，やっと理解が60%というところでした．それにしてもこの会も高齢者が多いなと思いました．どこの世界もそうで，若い人をどう入れていくかが課題です（そういう私も71歳ですが...）．馬奈木先生の講演は，公害裁判とまったく同じということで，公害裁判をしっかり学ぶことで政府がどういう方針かみやぶれると思った．
 - 馬奈木講演：水俣訴訟での豊かなご経験を福島に関連づけたお話し，大変感銘を受けました．吉岡講演：政府委員会での少数の脱原発派メンバーとしてのお仕事，大変貴重なお話しを聴くことができました．
 - 長い間，国や企業と公害裁判を闘ってこられた経験からえられた構造的な問題は，大変示唆に富んでいる．福島原発事故に対する国，官僚，東電の姿勢を批判的にみる必要性を学んだ．
 - 素晴らしい講演に心より感謝しております．馬奈木先生のお話には国家への怒りと涙，吉岡先生のお話にはユーモアへの笑い，どちらも多くの方に聴いていただきたく，撮影されたDVDを買い求めました．拡散させていただきます．
 - どちらの講演にも，何となく感じていた社会の矛盾，政府や官僚の欺瞞など知らされた思いでした．充実した内容で，有り難うございました．
 - 交付金，税金，漁業補償，寄付金など，年間総額は数百億と聞きます．原発立地県の住民にとって，一番大きな重要なことだという実感です．
 - 基調講演，特別講演のみの参加者へ予稿集の3件分のコピーでよいので配布してほしい．講演に質疑応答がないのは不満です．
 - JSA 内部でも女性研究者の比率の小ささ等の問題があり，それを考えるために参加者の女性比率を調査することに意味があるという考えは理解できますが，二者択一的に性別を回答させるアンケートは極めて問題が大きいと考えます．セクシャル・マイノリティーの方など女性／男性という二分法でカテゴライズされない／されることを望まない方々もいます．今後のアンケート等では形式を再検討していただきたいです．
- 回答：いわれる点は，よく理解できます．これまで，うっかり二択にしていたことを反省します．今後は，三択目を入れて「その他」とするか，または別の名称にするか考えます．

3. 福岡核問題研究会（10/4）の報告

福岡核問題研究会は，10月4日の例会において次の議題について報告と討論を行った．

内容：（1）「被ばく労働者の疫学調査について」（講演：永井氏）

（2）20総学分科会の総括（報告：豊島氏）

ここでは（1）の議題について報告する．

20 総学の分科会「低線量被ばくについて」において講演された永井宏幸氏に当日の講演内容をより詳細に説明いただいた．

公益財団放射線影響協会（放影協会）は日本の放射線業務従事者の被ばく線量と人体への放射線の影響について過去4回にわたって報告書を出してきている。永井氏は、これらの報告書の結果を批判的に取り上げられた。放影協会によるデータ分析では、原発労働者の被曝によるがん死亡率が増加していることが統計的に有意という結果が得られている。しかし、報告書は、「生活習慣等の交絡による影響の可能性を否定できない」ので、総合評価としては「死亡率に影響を及ぼしている明確な証拠は認められなかった」と結論している。線量群別の喫煙者比率は線量の大きい群ほど大きいという、放影協会のおこなったアンケート調査をもとに総合評価としているが、それ以上のデータの解析を行っていない。永井氏は、喫煙による交絡効果は、死亡率増加の28%程度に過ぎないことを明らかにして、喫煙リスクの影響をのぞいた過剰相対リスク(ERR)係数は0.62/Svと独自の算定を行っておられる。

放影協会はすべてのデータを持っているのであるから、喫煙による交絡効果を算定しようと思えばできる筈であるにもかかわらず、報告書ではその交絡による影響を否定できないので「明確な証拠」は認められなかったとしているのである。

永井氏は、政府予算の資料に「原子力発電施設等における放射線業務従事者が被ばくしている低線量域の放射線が人体に及ぼす影響を明らかにし、従事者等の放射線に対する不安を取り除くための調査を実施し、財団法人放射線影響協会に対し239,714千(2.4億)円を支出した」とあるのを指摘し、放影協会による報告書は被曝労働者の不安を取り除くことが目的であり、原発労働者の生命と健康を保護する目的とする疫学調査ではなく、報告書の結論は調査する前から決まっていたと断言された。

(以上、三好記)

4. 例会等のご案内

日本科学者会議（JSA）北九州分会 2014年度第3回例会の案内

日時：2014年10月31日（金）18：00～20：00
会場：西小倉市民センター会議室2（2階）

話題提供者：西谷 龍介氏
題目：（仮題）技術の哲学の紹介

エネルギー研究会第68回例会の案内

日時：12月6日（土）14:00-17:00
会場：久留米高専・機械材料会議室

内容：「木質エネルギービジネスの展望」（熊崎実，林業改良普及双書）の輪読

『日本の科学者』10月号 読書会の案内

10月13日(月)に予定していた読書会は台風19号のため以下に延期しました。

日時：2014年11月10日(月) 14:00～17:00

会場：ふくふくプラザ 604室(福岡市中央区荒戸 3-3-39)

内容：『日本の科学者』10月号<特集>超伝導磁気浮上方式「リニア新幹線」の徹底解剖—
文明論, 基礎技術, 環境保全, 経済などの観点から

福岡核問題研究委員会の案内

日時：2014年11月1日(土) 10:00～12:00

会場：九州大学筑紫キャンパス総合研究棟 C-CUBE 5階 511

内容：(1) 川内原発再稼働阻止にむけて(報告：中西氏)
(2) 「原発ゼロの運動と玄海原発立地地域住民の思いについて」(報告：岡本氏)
(3) その他

『日本の科学者』読書会の案内

日時：2014年12月8日(月) 14:00～17:00

会場：ふくふくプラザ 604室(福岡市中央区荒戸 3-3-39)

内容：『日本の科学者』11月号または12月号